

# 夏の山梨に「歓喜の歌」

甲府市と富士河口湖町で25日、ベートーベンの「交響曲第9番(合唱付き)」の演奏会が開かれた。いずれも第28回国民文化祭事業の一環で、世界的指揮者の佐渡裕さんがタクトを振ったり、2年間の練習の成果を県民らが披露し、夏の山梨に「歓喜の歌」を響かせた。

〈文化・くらし報道部〉

## 甲府と富士河口湖で演奏会

富士河口湖・河口湖ステラホール(県民文化ホール)で開かれた「県民による第九演奏会」(喜びの歌を歌おう実行委員会主催)は、県民や県出身のアマチュア音楽愛好家を中心に、オーケストラと合唱合わせて約330人が出演した。

「すべての人が兄弟になる」という第9のメッセージを歌にのせて伝えると、観客からは盛大な拍手がわき上がった。

ステージ横には1824年にウィーンで第9が初演されたころのポスター(複写)を6尺ほどの高さに拡大コピーして掲示。当時の雰囲気を感じながらの特別なステージとなった。

一方、甲府・コラニー文化



2年近い練習の成果を披露した「県民による第九演奏会」  
—甲府・コラニー文化ホール



2011年10月から練習を重ねてきた出演者たちは、ダイナミックな演奏と感情のこもった歌声を披露。2千人の観客からは大きな拍手が送られ、「ブラボー」といった掛け声が飛び交っていた。

世界的指揮者の佐渡裕さんがタクトを振った「富士山の麓で第九演奏会」―富士河口湖・河口湖ステラシアター